

香害学習会 『香りの害ってなんだろう？ ～現代の公害を考える～』

自然派くらぶ生協・ナチュラルコープヨコハマ・やまゆり生協：共催

2025年1月25日（土） オンライン&サテライト会場（町田市文化交流センター）開催

講師：平賀典子（日本消費者連盟 洗剤部会／香害をなくす連絡会／新潟大学非常勤講師）

1. 香害とは

- 香害は、香りや消臭などの作用が長く続く、日用品による化学物質の害
- 香害の原因トップは「柔軟剤」
- 香りの強い製品が登場してから被害が拡大した
- 日用品であるため、子どもの環境までが汚染されている
- 香水よりも長続きする製品や、12週間も続く製品がある

2. 香りの問題

- 香料は石油からつくられる複合化学物質
- 有害な化学物質が多くつかわれている
- 香料には「難分解性」「発がん性」「内分泌かく乱作用」など問題があるものがある
- 香料の添加剤「フタル酸エステル」は、ホルモン系や生殖に関わり、次世代以降にも影響

3. マイクロカプセル

- 次々と時間差で弾けて、作用が長続きする
- カプセル素材から有害化学物質が放出される可能性
- 目に見えないほど小さいサイズ
- キャップ一杯に一億個ものカプセルが含まれる
- 市販の多くの商品に配合されている（ただし表示はされていない）

4. 移香（いこう）と嗅覚

- 柔軟剤の香りは、洗ってもなかなか落とせない
- 様々なものに香りが移り、被害を拡げている
- 嗅覚疲労（順応）により、香りを感じない人が大半
- 嗅覚という生存に大切な器官が脅かされている
- 脳がニオイを感知しなくなるような香料技術がでてきている

5. 環境への影響

- マイクロカプセル香料もマイクロプラスチックのひとつ
- マイクロカプセルは環境中に放出され、回収は不可能
- 貝類からは香料や有害化学物質も見つかっている
- 人体からマイクロプラスチックが検出されている

- EUはマイクロプラスチックの「意図的な添加」を制限
- 日本にも法律があるが、規制がされていない

6. 柔軟剤とは

- テレビCMで「使うのが当たり前」と思い込まされている
- 柔軟剤は「陽イオン」界面活性剤
- 吸着作用、皮膚刺激が強い、細胞膜を破壊する
- 吸水性が落ちる、頑固な油分は洗濯槽を汚染する
- すすぎ不足 + 柔軟剤で、汚れとにおいが戻ってしまう
- 柔軟剤には揮発成分や多くの化学物質が含まれる

7. 除菌消臭剤

- 「消臭」商品は「菌」をターゲットにしているが、ニオイを分解するわけではない
- 消毒剤は、細胞にもダメージを与える
- とくに肺には悪影響の可能性
- マウスの影響について論文が複数
- 脳に障害の可能性も
- 恐怖マーケティングに注意

8. 化学物質過敏症

- 香害によって化学物質過敏症発症者が増えている
- 症状は多岐にわたるが、脳に作用する特徴がある
- 一度発症すると完治は難しく、生活に支障が生じる
- 化学物質の代謝能力には個人差があり、女性の発症が多い
- 子どもの発症が問題になっている
- 化学物質はペットや高齢者にも危険

9. 香害をなくす取り組み

- 5省庁連名の香害啓発ポスターができています
- 北米やカナダでは、「従業員の健康上の懸念」に基づき、無香料政策を行っている
- 「香害をなくす議員の会」が発足し、多くの議員が参加
- 「子どもの香害」アンケートなど取り組みが広がる

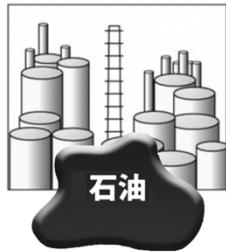
10. 合成洗剤と石けん

- 洗剤は「石けん」と「合成洗剤」との2種類がある
- 石けんは安全性が証明されているが、合成洗剤は生物や環境に悪影響がある
- 有害性を示すGHSマークが、消費者が使う製品には表示がされていない（業務用にだけ表示）
- 石けんやアルカリ洗浄剤などを活用したナチュラルな洗濯のすすめ

公害

大気汚染

体内汚染



合成洗剤柔軟剤
製造メーカー



無意識の加害者

無意識の潜在被害者

マイクロカプセル
柔軟剤/合成洗剤/香料/添加剤

化学物質過敏症/アレルギー/病気

海洋汚染

土壌汚染

まとめ：私たちにできること

- 香害製品を買わない、使わないようにしよう
- 香害を周囲に伝えよう
- 香害被害をメーカーに訴え、製造中止を要求しよう
- 香害被害を国や自治体に伝え、規制や対策を求めよう
- テレビCMや新技術を疑おう

